

問14 生涯学習対策

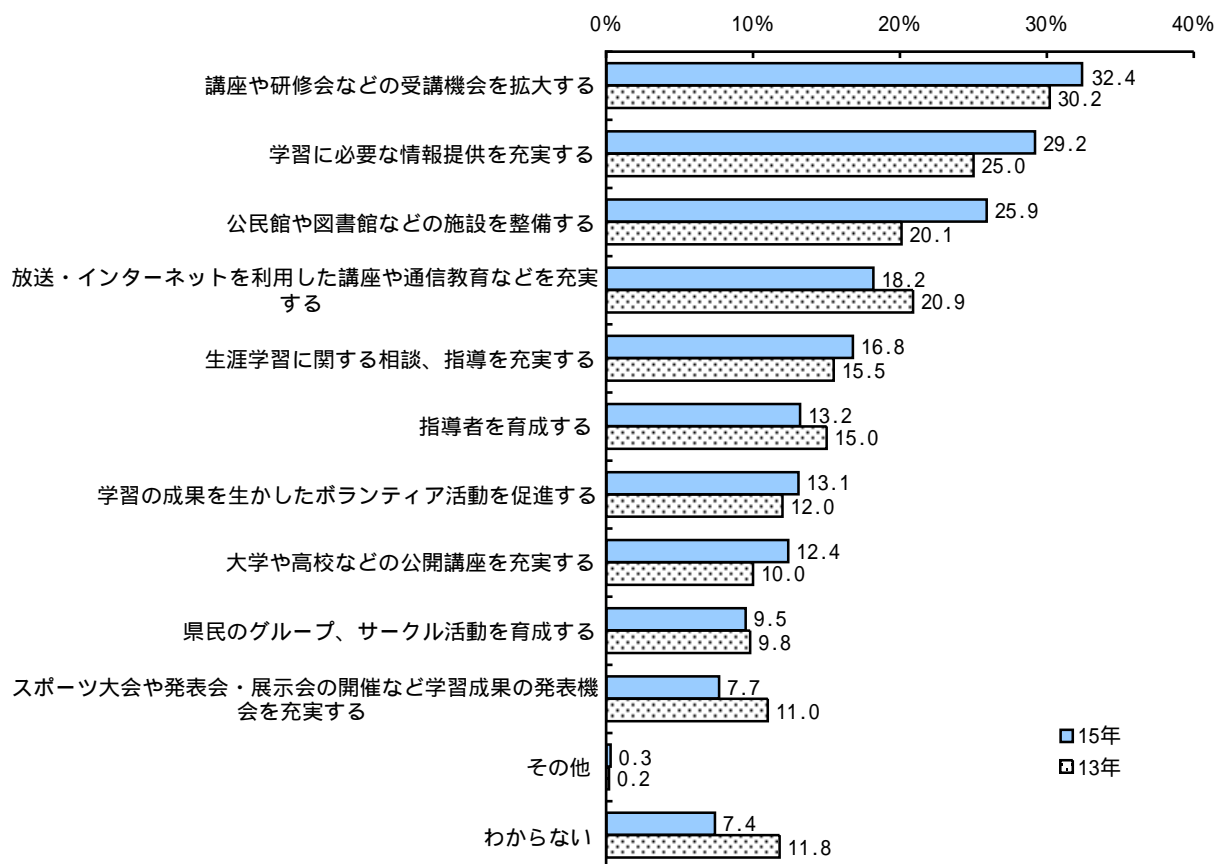
あなたは、生涯学習をさらに充実するためには、県はどのようなことに特に力を入れたいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

(複数回答) (%)

1 講座や研修会などの受講機会を拡大する	32.4
2 放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する	18.2
3 大学や高校などの公開講座を充実する	12.4
4 公民館や図書館などの施設を整備する	25.9
5 県民のグループ、サークル活動を育成する	9.5
6 生涯学習に関する相談、指導を充実する	16.8
7 指導者を育成する	13.2
8 学習に必要な情報提供を充実する	29.2
9 学習の成果を生かしたボランティア活動を促進する	13.1
10 スポーツ大会や発表会・展示会の開催など学習成果の発表機会を充実する	7.7
11 その他	0.3
12 わからない	7.4

生涯学習をさらに充実するためには、県はどのようなことに特に力を入れたいと思うかを聞いたところ、「講座や研修会などの受講機会を拡大する」と答えた人の割合が32.4%と最も多く、以下「学習に必要な情報提供を充実する」(29.2%)、「公民館や図書館などの施設を整備する」(25.9%)、「放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する」(18.2%)、「生涯学習に関する相談、指導を充実する」(16.8%)などの順となっている。

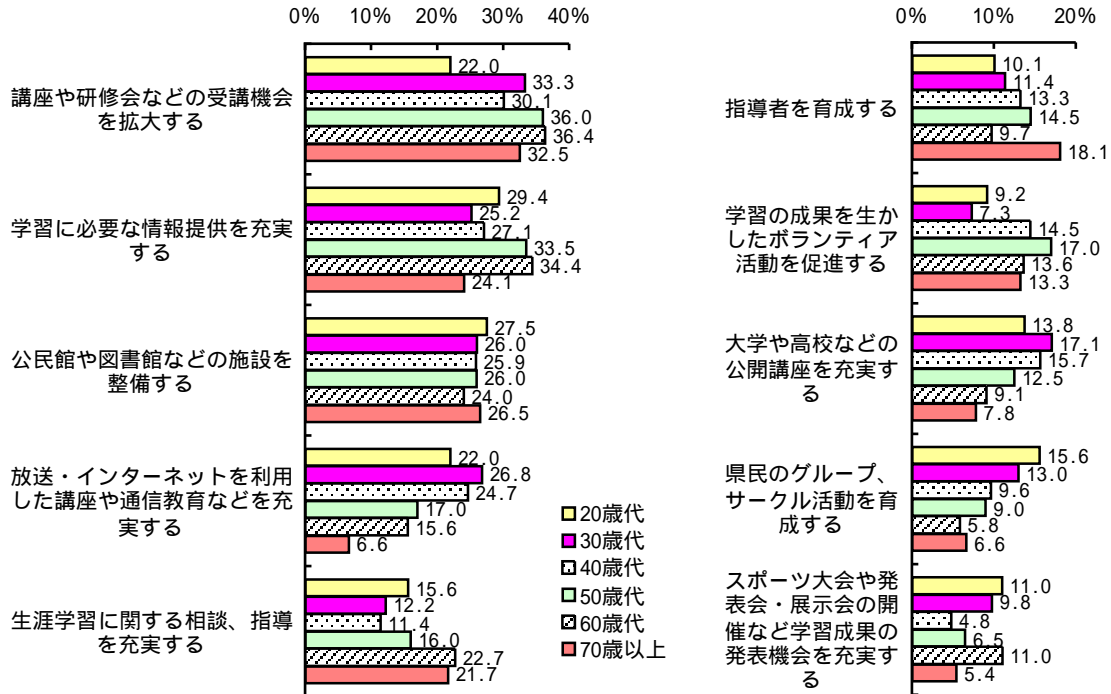
なお、前回調査結果と比較すると、「公民館や図書館などの施設を整備する」と答えた人の割合は5.8ポイント増加し、「放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する」は2.7ポイント減少し、順位が入れ替わっている。また、「スポーツ大会や発表会・展示会の開催など学習成果の発表機会を充実する」は3.3ポイント減少し、第8位から第10位に下降している。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代では「学習に必要な情報提供を充実する」と答えた人の割合が、その他の年齢層では「講座や研修会などの受講機会を拡大する」が最も多くなっている。

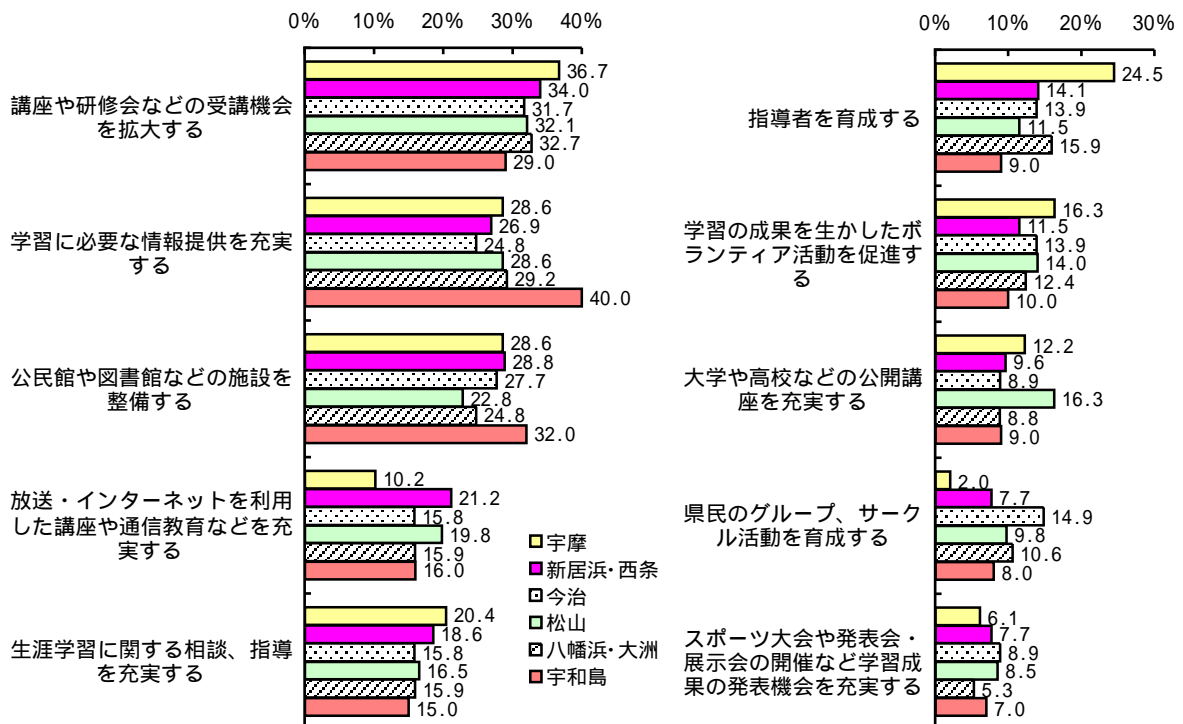
なお、「放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する」と答えた人の割合は40歳代以下で、「生涯学習に関する相談、指導を充実する」は60歳代以上で、他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域では「学習に必要な情報提供を充実する」と答えた人の割合が、その他の圏域では「講座や研修会などの受講機会を拡大する」が最も多くなっている。

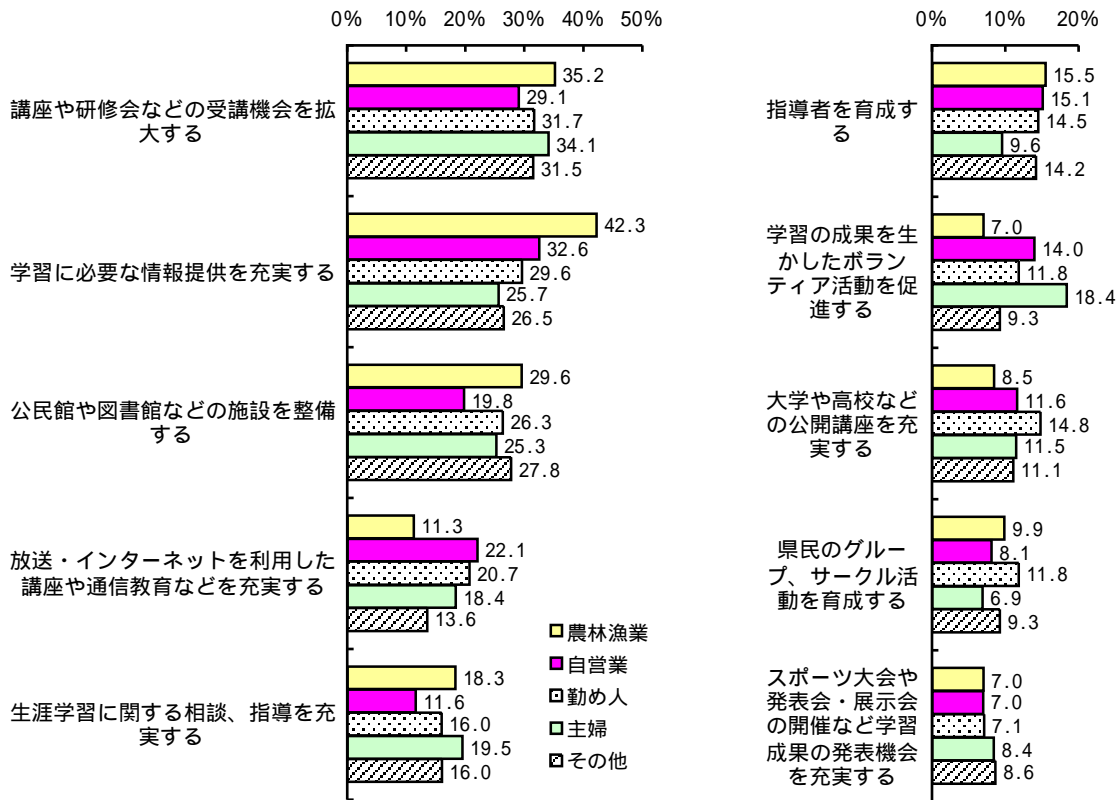
また、「公民館や図書館などの施設を整備する」と答えた人の割合は宇和島圏域で、「指導者を育成する」は宇摩圏域で、「大学や高校などの公開講座を充実する」は松山圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、勤め人、主婦、その他では「講座や研修会などの受講機会を拡大する」と答えた人の割合が、農林水産業、自営業では「学習に必要な情報提供を充実する」が最も多くなっている。

また、「放送・インターネットを利用した講座や通信教育などを充実する」と答えた人の割合は自営業で、「学習の成果を生かしたボランティア活動を促進する」は主婦で、他の職業と比較して多くなっている。



問1.5 青少年対策

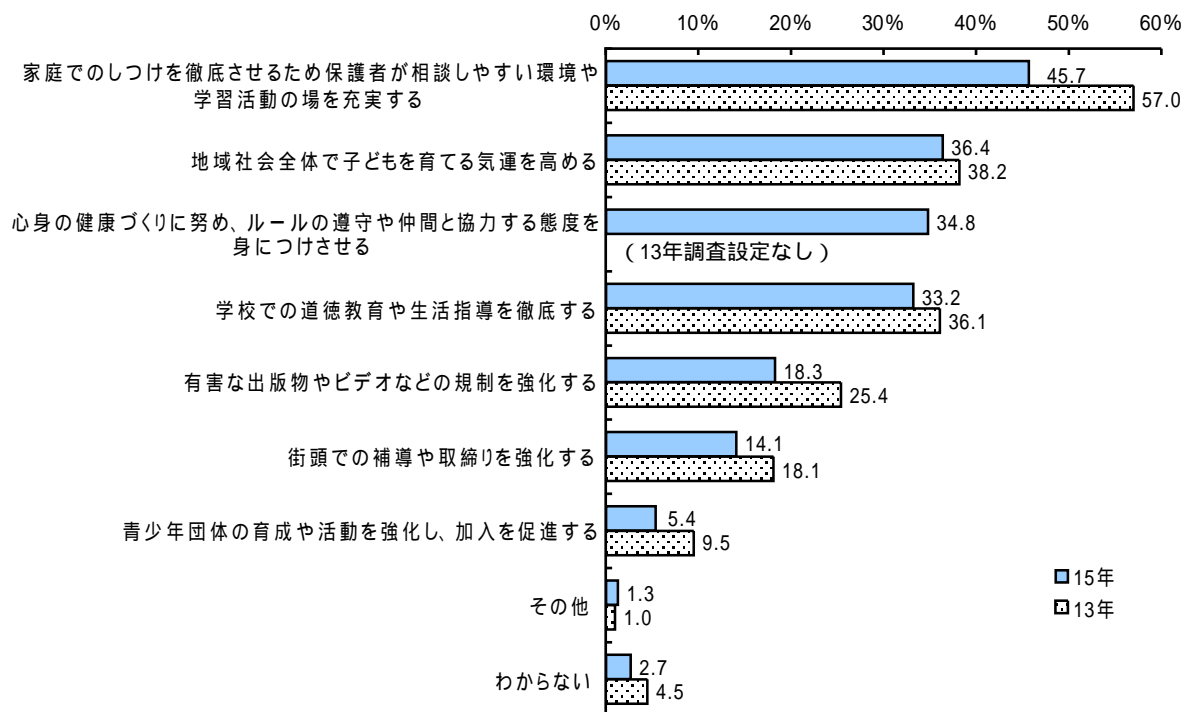
あなたは、青少年を健全に育成するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

(複数回答) (%)

1 学校での道徳教育や生活指導を徹底する	33.2
2 家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する	45.7
3 地域社会全体で子どもを育てる気運を高める	36.4
4 有害な出版物やビデオなどの規制を強化する	18.3
5 青少年団体の育成や活動を強化し、加入を促進する	5.4
6 街頭での補導や取締りを強化する	14.1
7 スポーツ・レクリエーション活動を通じた心身の健康づくりに努めるとともに、その活動を通じてルールへの遵守や仲間と協力する態度を身につけさせる	34.8
8 その他	1.3
9 わからない	2.7

青少年を健全に育成するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合が45.7%と最も多く、以下「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」(36.4%)、「心身の健康づくりに努め、ルールへの遵守や仲間と協力する態度を身につけさせる」(34.8%)、「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」(33.2%)などの順となっている。

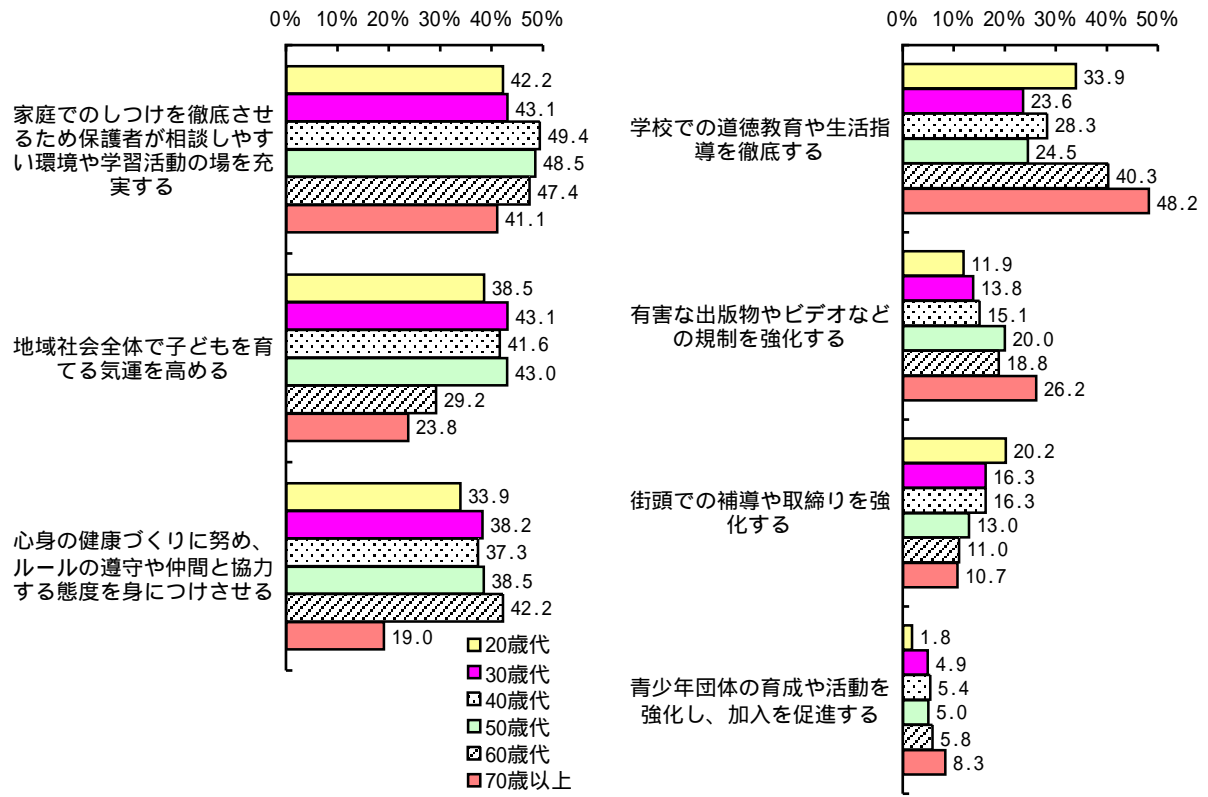
なお、前回調査結果と比較すると、新規調査項目の「心身の健康づくりに努め、ルールへの遵守や仲間と協力する態度を身につけさせる」が第3位と関心が高くなっており、「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合は11.3ポイント、「有害な出版物やビデオなどの規制を強化する」は7.1ポイントそれぞれ大きく減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上では「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」と答えた人の割合が最も多く、48.2%と他の年齢層と比較しても多く、その他の年齢層では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」が最も多くなっている。

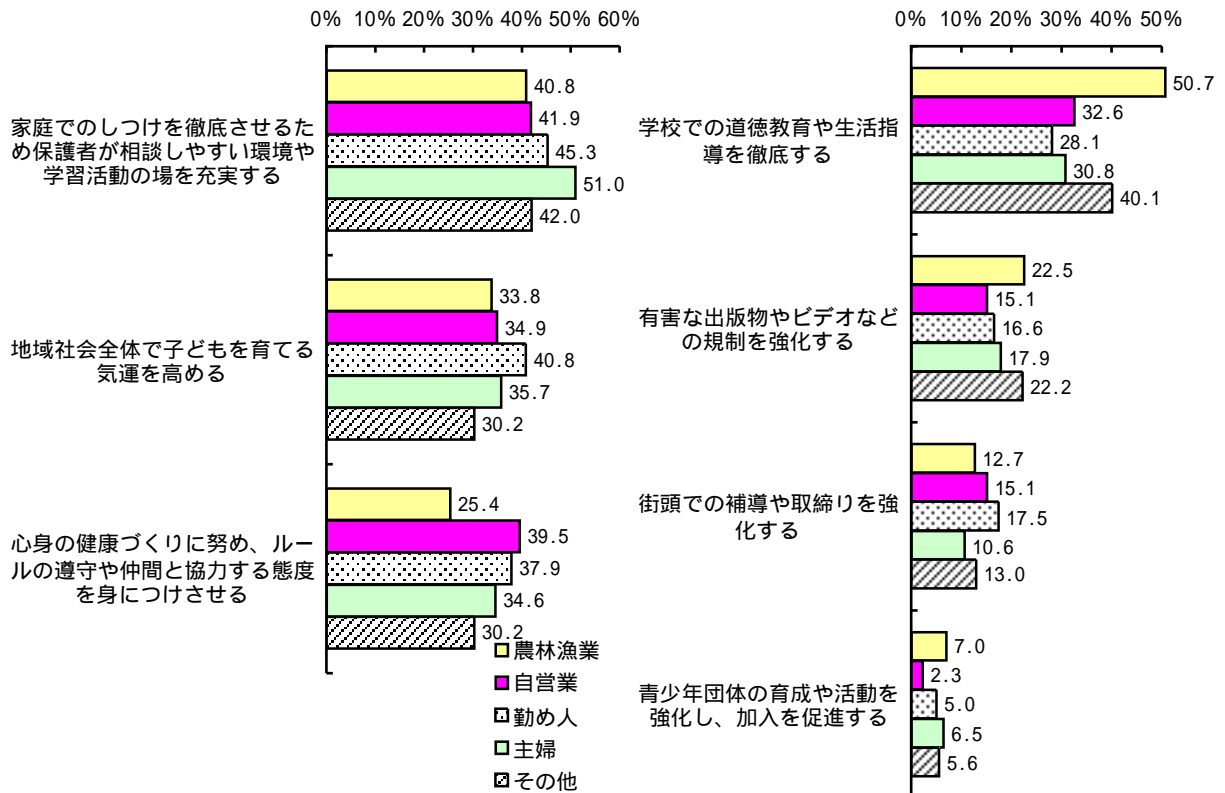
また、「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」と答えた人の割合は30歳代～50歳代で、「有害な出版物やビデオなどの規制を強化する」と答えた人の割合は70歳以上で、「街頭での補導や取締りを強化する」は20歳代で、それぞれ他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林水産業では「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」と答えた人の割合が最も多く、他の職業と比較しても多くなっており、それ以外の職業では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」が最も多くなっている。

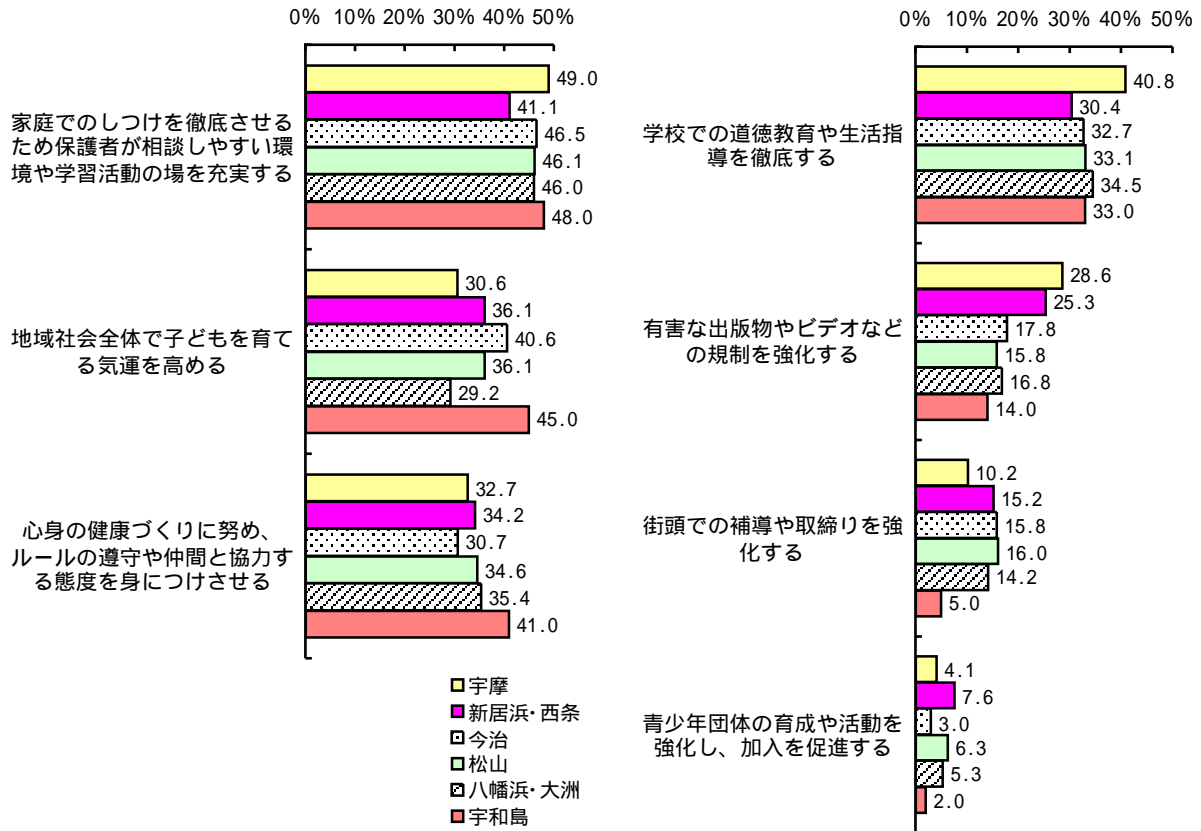
また、「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」と答えた人の割合は勤め人で、「有害なビデオなどの規制を強化する」は農林水産業、その他で、それぞれ他の職業と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、いずれの生活圏域においても「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」、「心身の健康づくりに努め、ルールへの遵守や仲間との協力する態度を身につけさせる」と答えた人の割合は宇和島圏域で、「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」、「有害な出版物やビデオなどの規制を強化する」は宇摩圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。



問16 文化振興対策

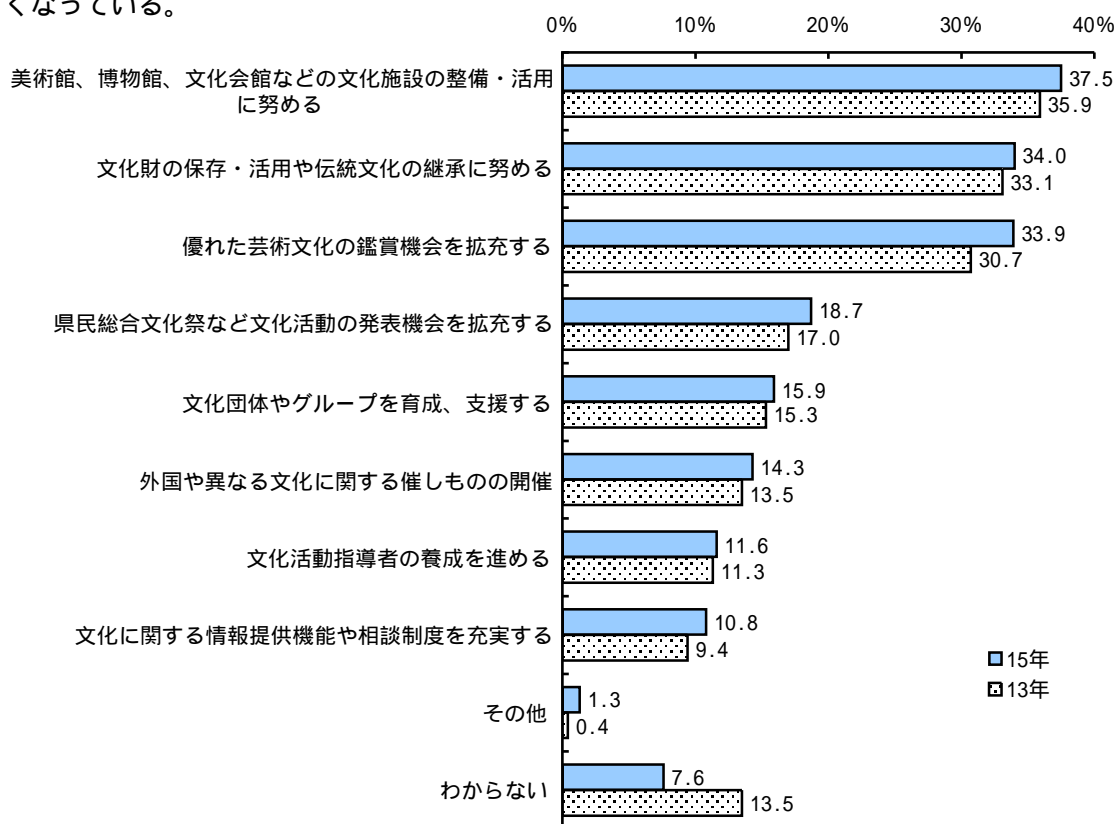
あなたは、県民の文化活動を促進するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

(複数回答) (%)

1	美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める	37.5
2	県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する	18.7
3	優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する	33.9
4	文化団体やグループを育成、支援する	15.9
5	文化に関する情報提供機能や相談制度を充実する	10.8
6	文化活動指導者の養成を進める	11.6
7	文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める	34.0
8	外国や異なる文化に関する催しものの開催	14.3
9	その他	1.3
10	わからない	7.6

県民の文化活動を促進するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人が37.5%と最も多く、以下「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」(34.0%)、「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」(33.9%)、「県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する」(18.7%)などの順となっている。

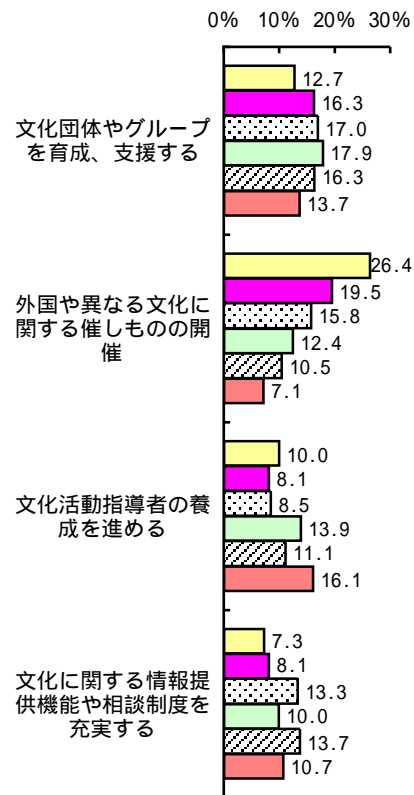
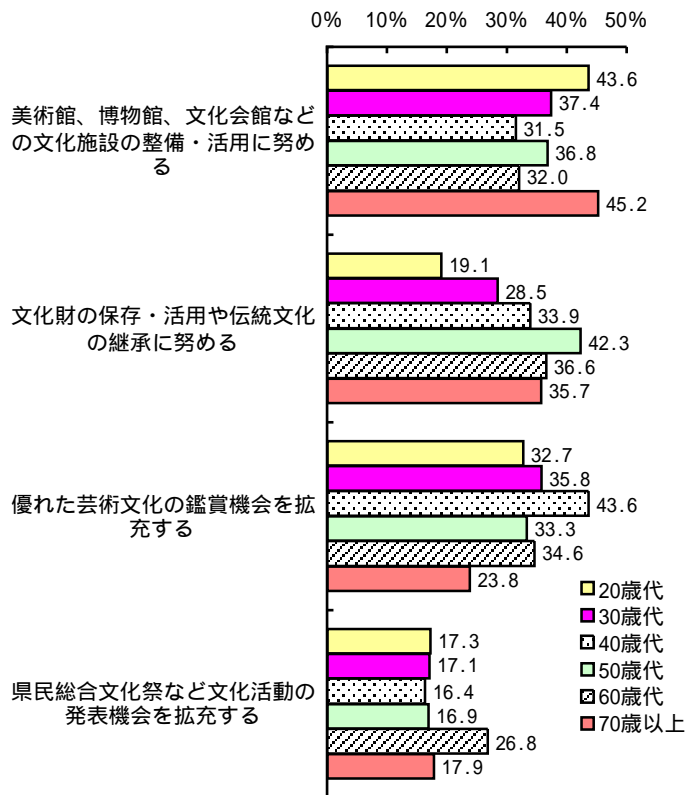
なお、前回調査結果と比較すると、「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」が3.2ポイントと多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代、30歳代、70歳以上では「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人の割合が、50歳代、60歳代は「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」が、40歳代は「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」が最も多くなっている。

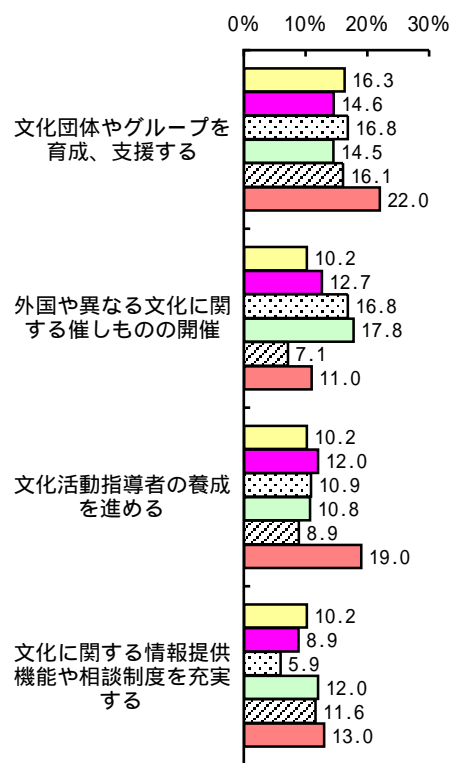
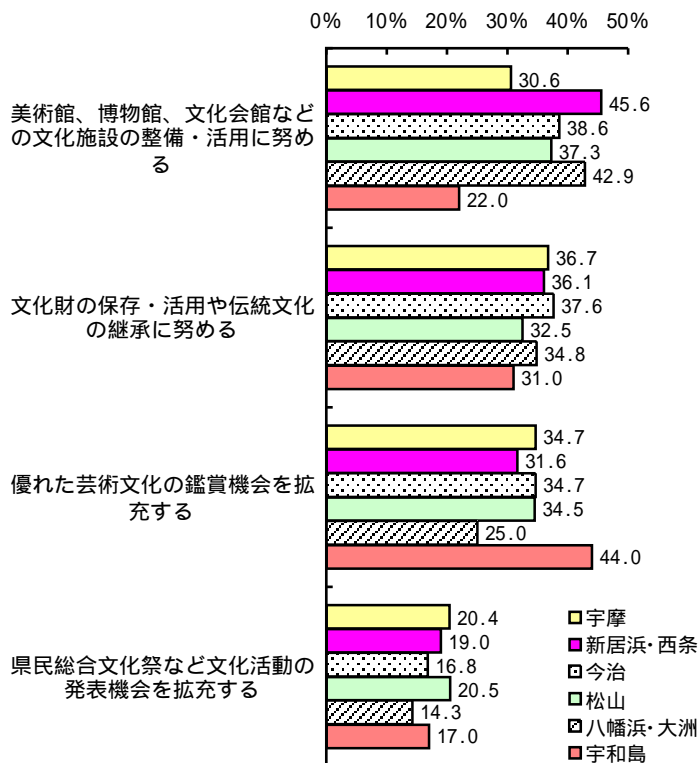
なお、「県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する」は60歳代で他の年齢層と比較して多く、また、「外国や異なる文化に関する催しものの開催」と答えた人の割合は若年層になるほど多く、20歳代で26.4%と最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域では「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」と答えた人の割合が、新居浜・西条圏域、今治圏域、松山圏域、八幡浜・大洲圏域では「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」が、宇和島圏域では「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「文化団体やグループを育成、支援する」、「文化活動指導者の育成を進める」と答えた人の割合は宇和島圏域で、「外国や異なる文化に関する催しものの開催」は松山圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。

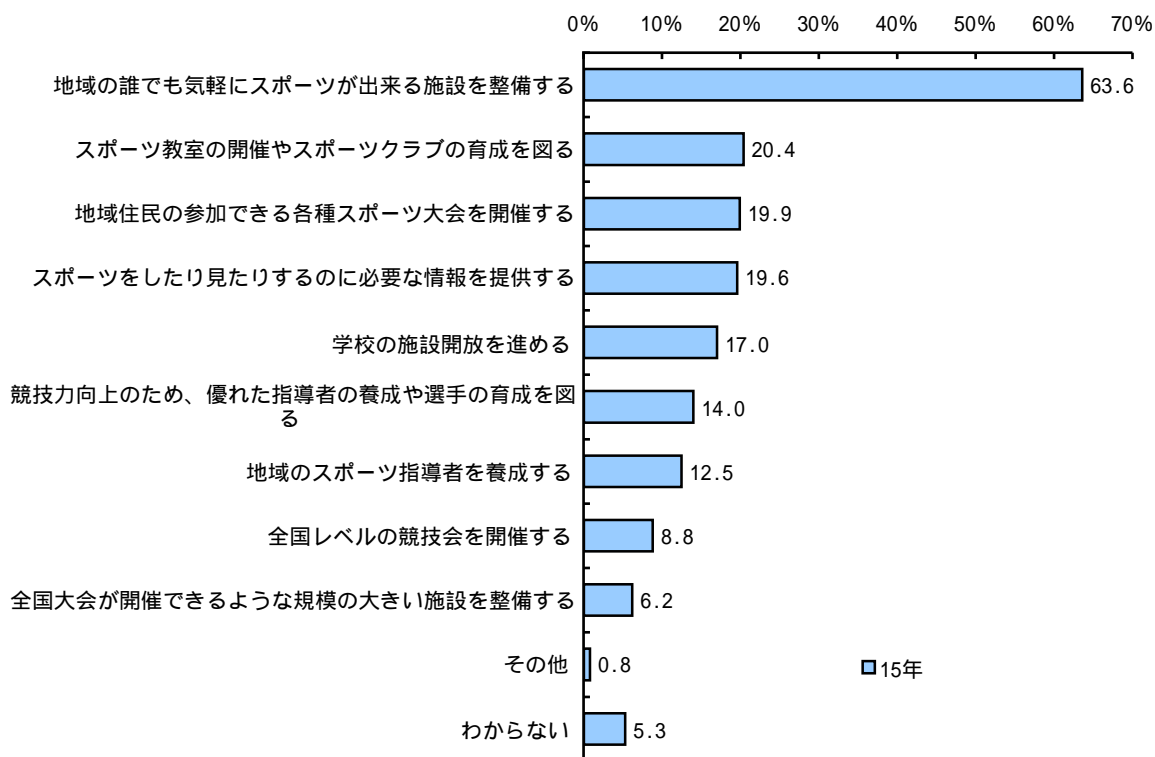


問17 スポーツ振興対策（新規調査課題）

あなたは、スポーツ振興対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

	(複数回答)	(%)
1 スポーツ教室の開催やスポーツクラブの育成を図る		20.4
2 地域の誰でも気軽にスポーツが出来る施設を整備する		63.6
3 地域のスポーツ指導者を養成する		12.5
4 学校の施設開放を進める		17.0
5 地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する		19.9
6 全国大会が開催できるような規模の大きい施設を整備する		6.2
7 競技力向上のため、優れた指導者の養成や選手の育成を図る		14.0
8 全国レベルの競技会を開催する		8.8
9 スポーツをしたり見たりするのに必要な情報を提供する		19.6
10 その他 ()		0.8
11 わからない		5.3

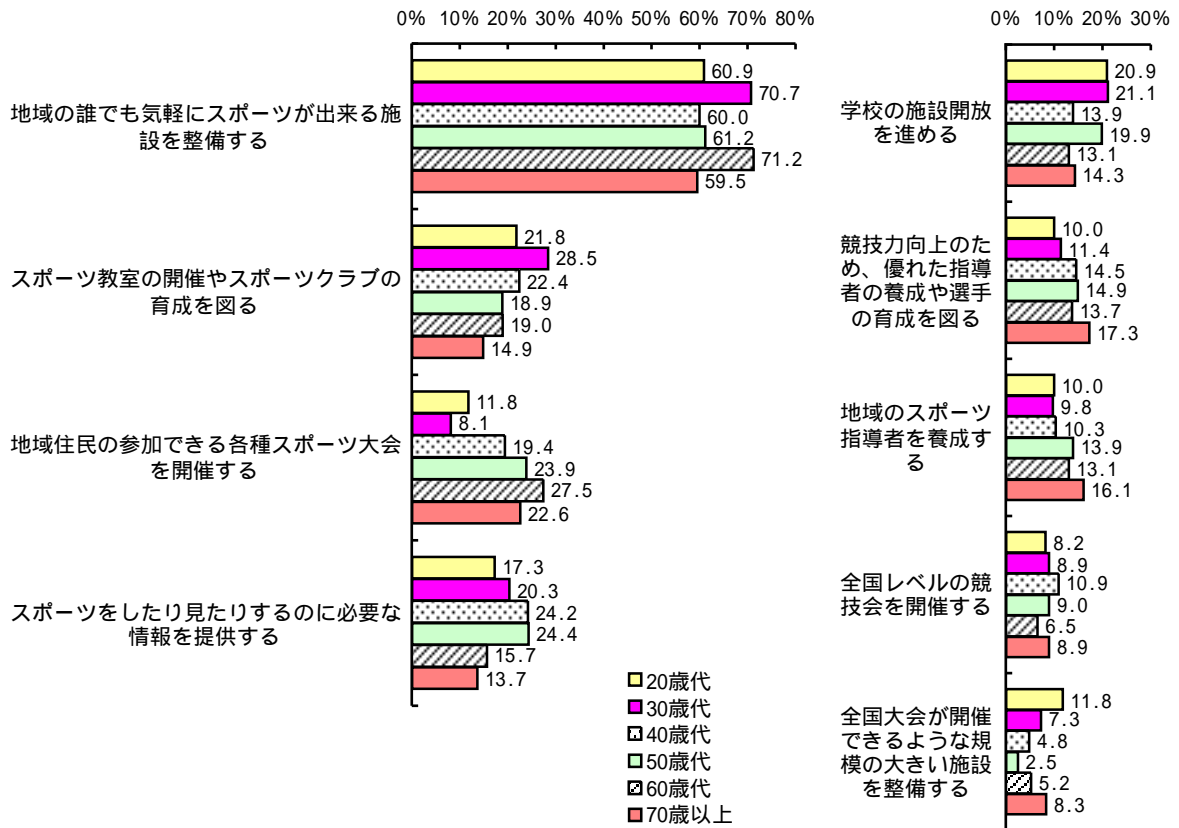
スポーツ振興対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「地域の誰でも気軽にスポーツが出来る施設を整備する」と答えた人の割合が63.6%と特に多く、以下「スポーツ教室やスポーツクラブの育成を図る」(20.4%)、「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」(19.9%)、「スポーツを見たりするのに必要な情報を提供する」(19.6%)などの順となっている。



【年齢別】

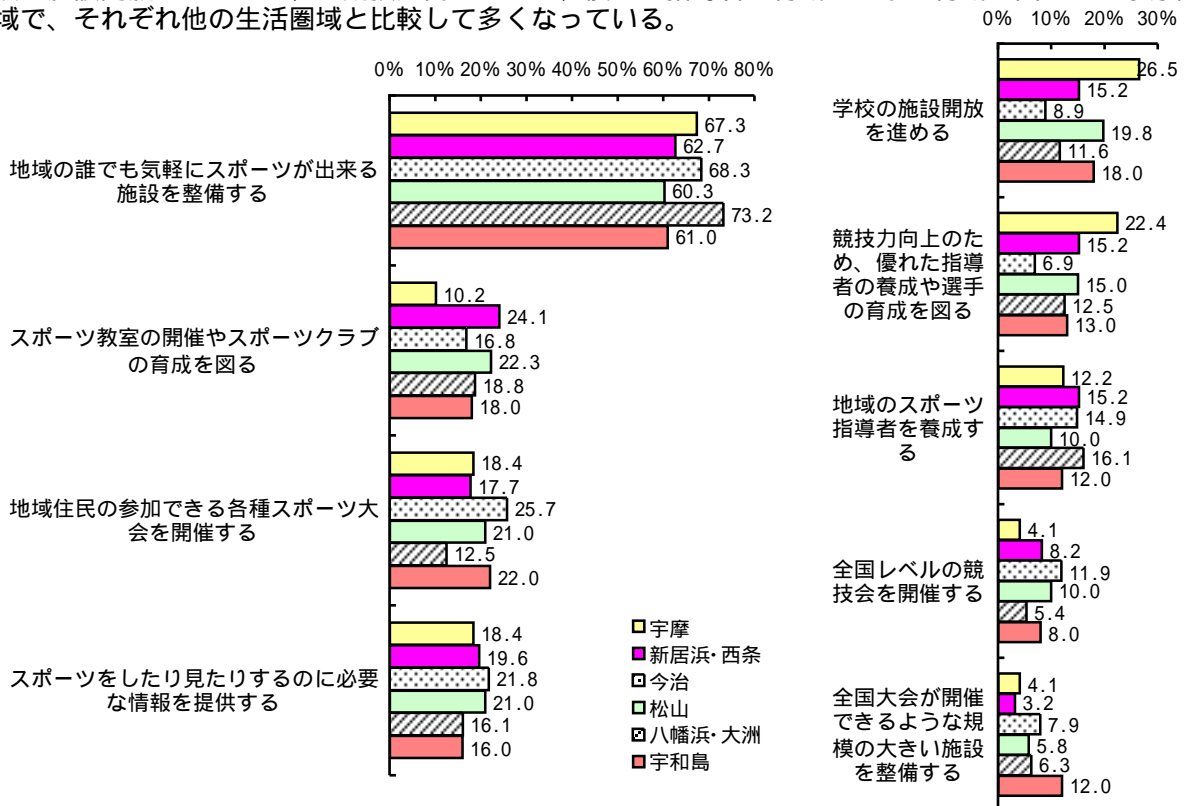
年齢別にみると、いずれの年齢層においても「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」と答えた人の割合が特に多く、中でも30歳代(70.7%)、60歳代(71.2%)が多くなっている。

また、「スポーツ教室やスポーツクラブの育成を図る」と答えた人の割合は30歳代で、「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」は60歳代で、他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、いずれの生活圏域においても「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」と答えた人の割合が特に多く、中でも八幡浜・大洲圏域（73.2%）で最も多くなっている。また、「スポーツ教室やスポーツクラブの育成を図る」と答えた人の割合は新居浜・西条圏域、松山圏域で、「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」は今治圏域、宇和島圏域で、「学校の施設開放を進める」、「競技力向上のため、優れた指導者の育成や選手の育成を図る」は宇摩圏域で、それぞれ他の生活圏域と比較して多くなっている。



問18 男女共同参画の推進対策

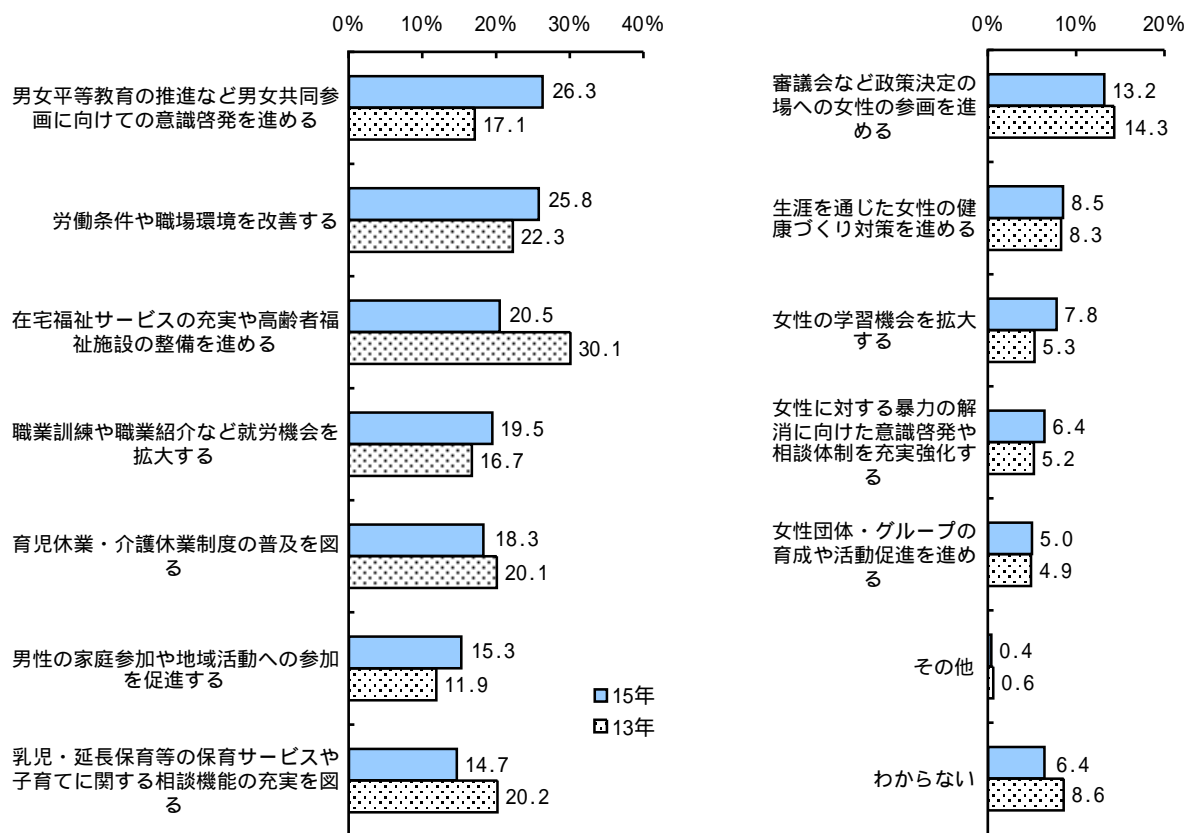
あなたは、男女共同参画社会づくりに向けて、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○でかこんでください。

(複数回答) (%)

1 男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める	26.3
2 審議会など政策決定の場への女性の参画を進める	13.2
3 女性の学習機会を拡大する	7.8
4 女性団体・グループの育成や活動促進を進める	5.0
5 在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める	20.5
6 乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る	14.7
7 生涯を通じた女性の健康づくり対策を進める	8.5
8 職業訓練や職業紹介など就労機会を拡大する	19.5
9 労働条件や職場環境を改善する	25.8
10 育児休業・介護休業制度等の普及を図る	18.3
11 男性の家庭参加や地域活動への参加を促進する	15.3
12 女性に対する暴力の解消に向けた意識啓発や相談体制を充実強化する	6.4
13 その他	0.4
14 わからない	6.4

男女共同参画社会づくりに向けて、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める」と答えた人の割合が26.3%と最も多く、以下「労働条件や職場環境を改善する」(25.8%)、「在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める」(20.5%)、「職業訓練や職業紹介など就労機会を拡大する」(19.5%)などの順となっている。

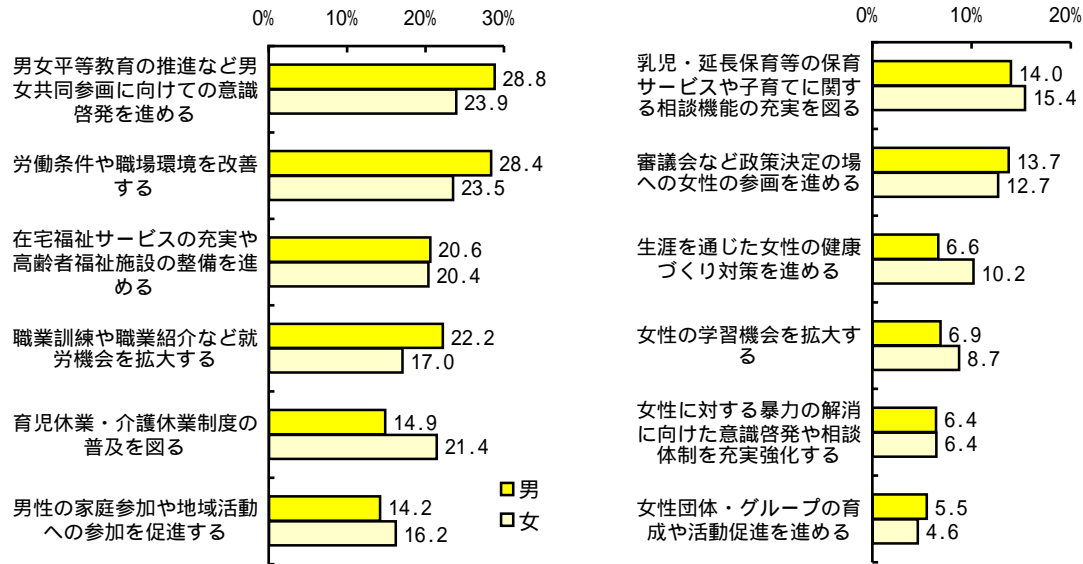
また、前回調査と比較して、「男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める」と答えた人の割合は9.2ポイント増加し、「在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める」は9.6ポイント、「乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る」は5.5ポイントそれぞれ減少し順位を下げている。



【性別】

性別にみると、男性、女性とも「男女平等教育の推進など男女共同参画型に向けての意識啓発を進める」と答えた人の割合が最も多くなっている。

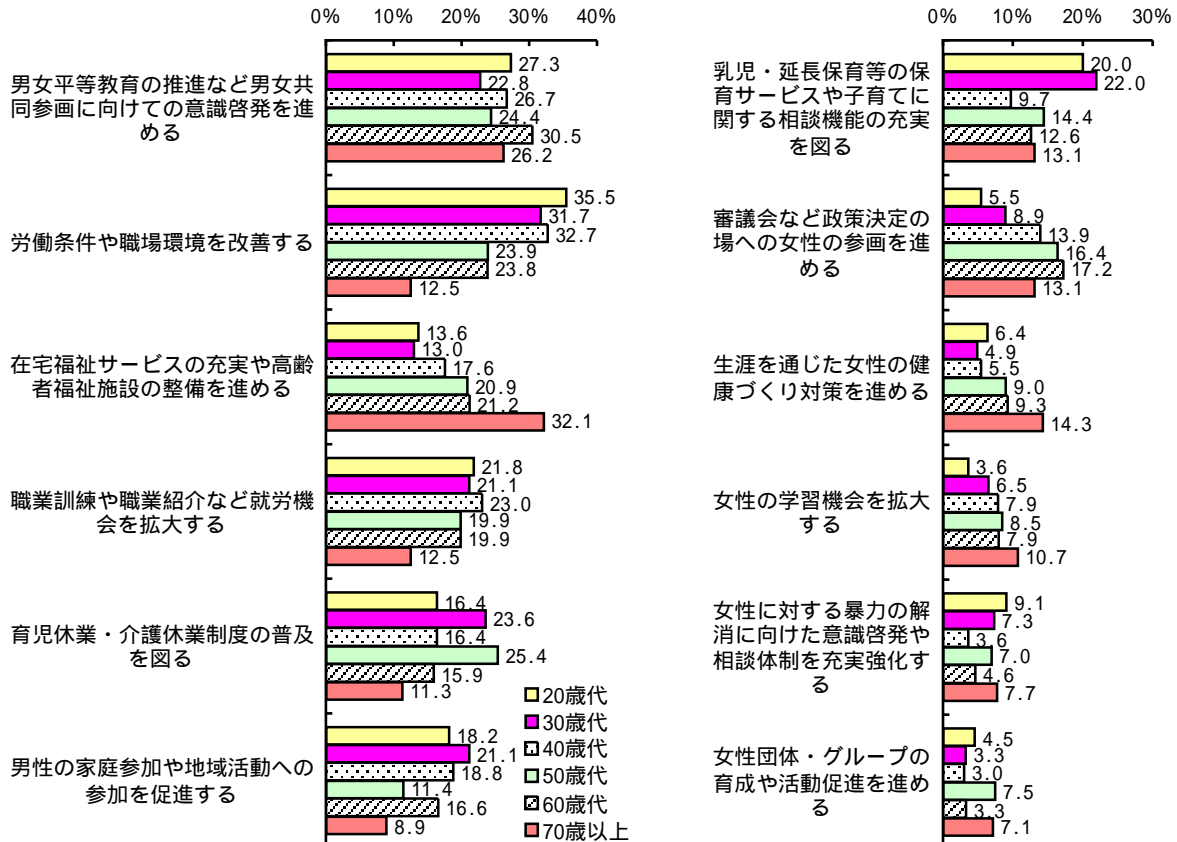
また、「労働条件や職場環境を改善する」、「職業訓練や職業紹介などの就労機会を拡大する」と答えた人の割合は女性より男性で多く、「育児休業・介護休業制度の普及を図る」、「生涯を通じた女性の健康づくり対策を進める」は男性より女性で多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以下では「労働条件や職場環境を改善する」と答えた人の割合が最も多く、概ね年齢層が低いほど割合が高くなっており、50歳代は「育児休業・介護休業制度の普及を図る」が、60歳代は「男女平等教育の推進など男女共同参画型に向けての意識啓発を進める」が、70歳以上は「在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める」が最も多くなっている。

また、「乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る」と答えた人の割合は30歳代以下で、「審議会など政策決定の場への女性の参画を進める」は60歳代で、「生涯を通じた女性の健康づくり対策を進める」は70歳以上で、他の年齢層よりも多くなっている。



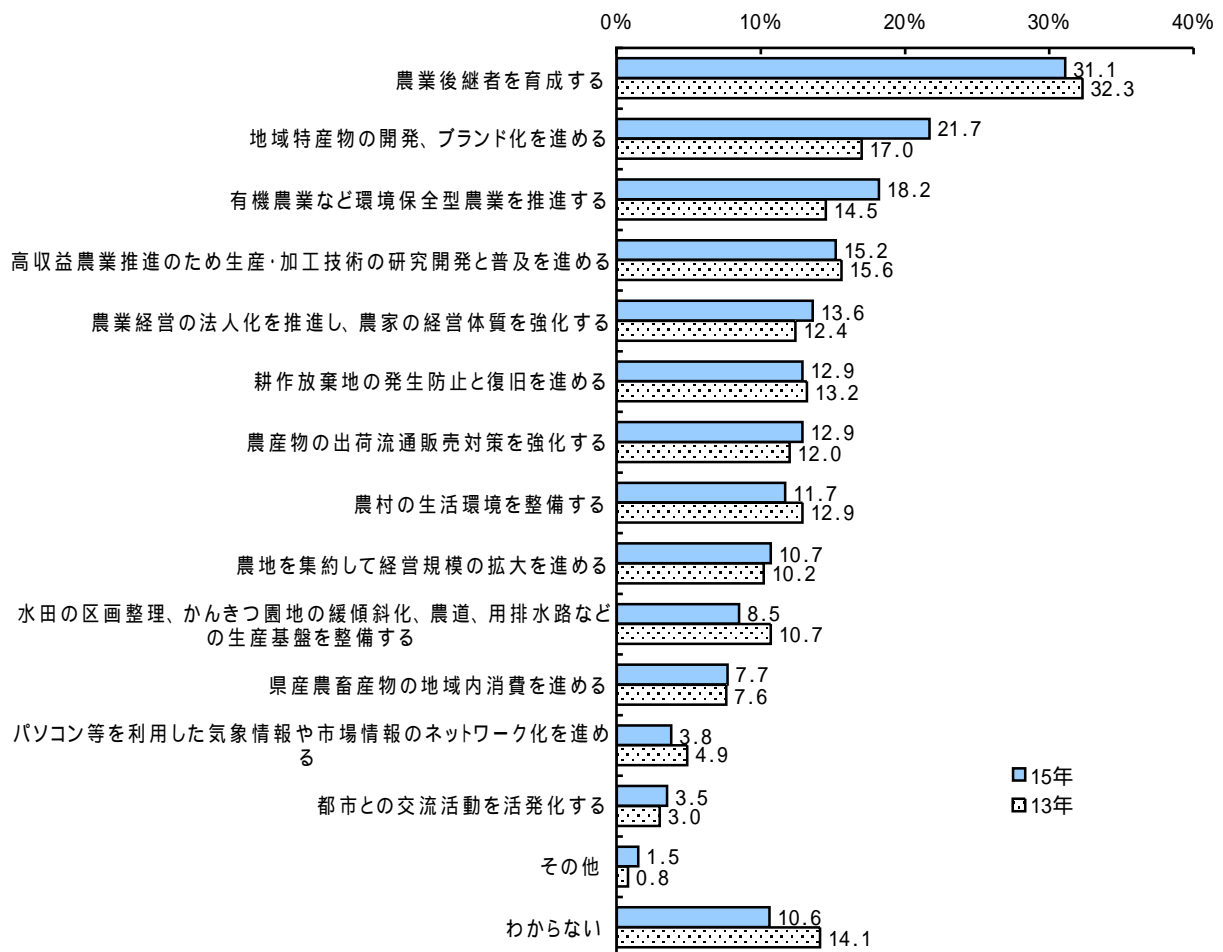
問19 農業対策

あなたは、県内の農業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。
(複数回答) (%)

1	農地を集約して経営規模の拡大を進める	10.7
2	農業経営の法人化を推進し、農家の経営体質を強化する	13.6
3	耕作放棄地の発生防止と復旧を進める	12.9
4	水田の区画整理、かんきつ園地の緩傾斜化、農道、用排水路などの生産基盤を整備する	8.5
5	高収益農業推進のため生産・加工技術の研究開発と普及を進める	15.2
6	地域特産物の開発、ブランド化を進める	21.7
7	農産物の出荷流通販売対策を強化する	12.9
8	農業後継者を育成する	31.1
9	農村の生活環境を整備する	11.7
10	都市との交流活動を活発化する	3.5
11	パソコン等を利用した気象情報や市場情報のネットワーク化を進める	3.8
12	有機農業など環境保全型農業を推進する	18.2
13	県産農畜産物の地域内消費を進める	7.7
14	その他	1.5
15	わからない	10.6

県内の農業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が31.1%と特に多く、以下「地域特産物の開発、ブランド化を進める」(21.7%)、「有機農業など環境保全型農業を推進する」(18.2%)、「高収益農業推進のため生産・加工技術の研究開発と普及を進める」(15.2%)、などの順となっている。

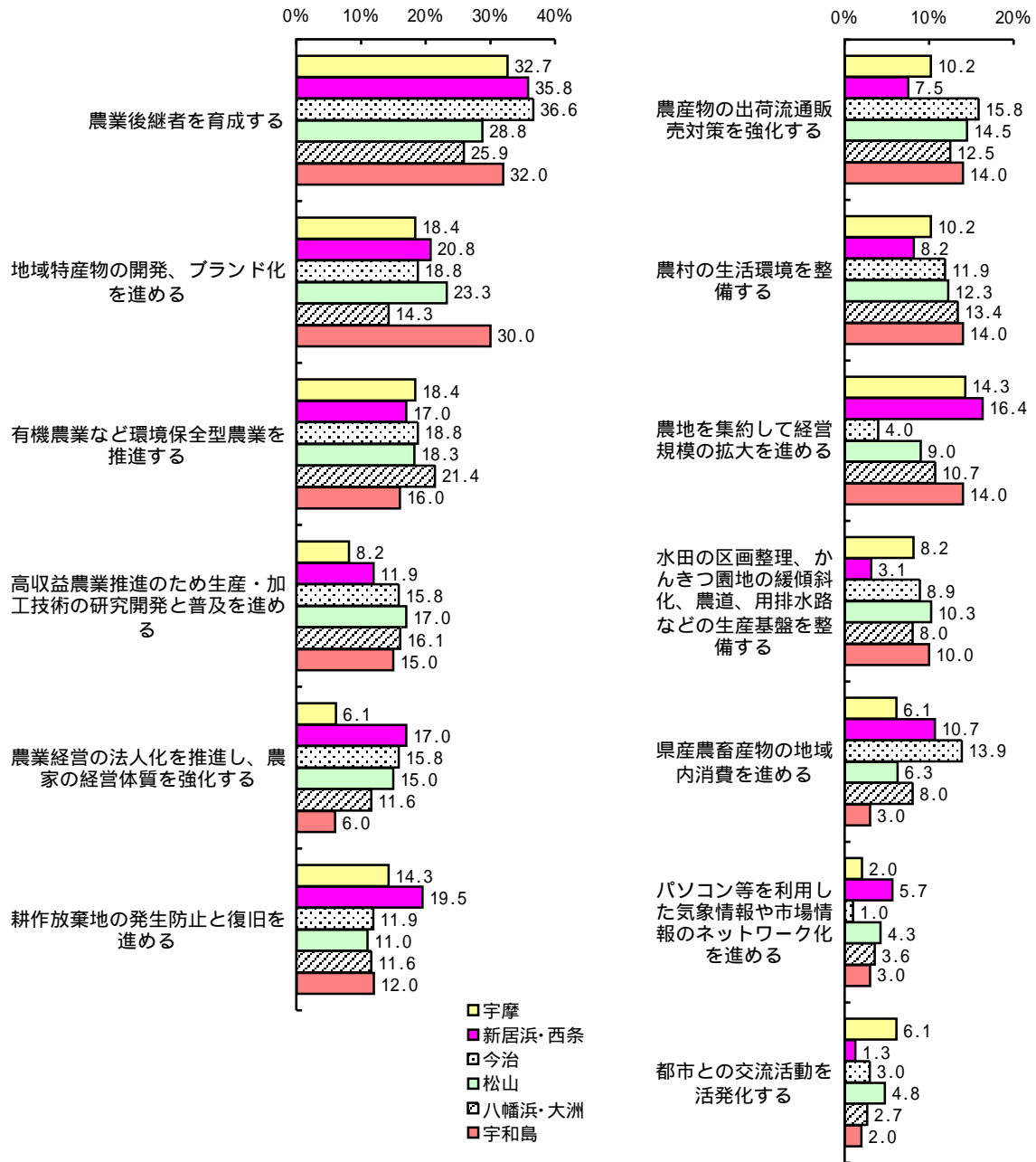
なお、前回調査結果と比較すると、「地域特産物の開発、ブランド化を進める」と答えた人の割合が4.7ポイント増加し、また「有機農業など環境保全型農業を推進する」は3.7ポイント増加し、第4位から第3位へ上昇している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、いずれの生活圏域でも「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「地域特産物の開発、ブランド化を進める」と答えた人の割合は宇和島圏域で、「耕作放棄地の発生防止と復旧を進める」は新居浜・西条圏域で、「県産農畜産物の地域内消費を進める」は今治圏域で、他の生活圏域と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別の内訳により、農林漁業者の意見をみると、「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が最も多く、次いで「農産物の出荷流通販売対策を強化する」、「水田の区画整理、かんきつ園地の緩傾斜化、農道、用排水路などの生産基盤を整備する」、「高収益農業推進のため生産・加工技術の研究開発と普及を進める」及び「農村の生活環境を整備する」の順に多くなっている。

また、農林漁業者では「農産物の出荷流通販売対策を強化する」、「水田の区画整理、かんきつ園地の緩傾斜化、農道、用排水路などの生産基盤を整備する」と答えた人の割合が他の職業と比較して特に多く、「地域特産物の開発、ブランド化を進める」は特に少なくなっている。

